

猫免疫不全ウイルス感染症(FIV)について知ろう

猫エイズってどういう病気？

猫免疫不全ウイルス(Feline Immunodeficiency virus: 略してFIV)の感染が原因で、免疫力が徐々に低下するのにしたがって、発熱や血液系トラブル、口内炎やリンパ節腫瘍など、さまざまな症状を併発していき、最後は後天的免疫不全症候群(Acquired immunodeficiency syndrome: 略してAID)いわゆる「エイズ」を発症し確実に死に至る病です。根本的な治療法は未だ見つかっていません。ただし、感染後すぐに死に至るわけではなく、潜伏する無症状の期間があり、発症せずに命をまっとうする猫もいます。

猫エイズの感染経路とは

猫免疫不全ウイルスに感染した「キャリア猫」とのケンカによる咬傷（確率の高い主な感染経路）
オス・メスの交尾による異性間の感染
母猫から子猫へ胎盤やお乳を通じた母子感染

猫エイズはネコ科のみに感染する(人や犬にはうつらない)

「エイズ」との呼び名から人への感染を心配されることがありますが、猫エイズウイルスは、人や犬には感染しません。空気感染や接触感染はしません。そこまで感染力の強い病原体ではないので感染猫と直接の接触を防ぐことができれば感染しません。

猫エイズに感染してもすぐに発症するわけではない

猫エイズは感染後すぐに発症するわけではなく、症状が現れない「潜伏期間」ともいえる時期が約数年～10年以上あります。感染しても数年間は症状なく暮らせる期間があり、なかにはキャリア猫であっても健康な猫と同じように過ごしている猫もいます。

完全室内飼育で外猫との接触を避けることが一番の予防

キャリアであっても無症候性キャリア一期の間に、発症させない暮らしを心がけましょう。ストレスは免疫を下げるということがわかっています、特にストレスを与えない生活環境づくりが大切です。

キャリア猫との暮らしのポイント

いつも清潔なトイレにする
いつも新鮮な水と栄養バランスのよい食事を準備する
キャットタワーなどの上下運動ができる場所を設置
騒音などが少ない落ちつける寝床の確保
去勢・不妊手術をし、完全室内飼育で他の猫や感染症との接点を減らす
体調の変化に気づいたらすぐにかかりつけの動物病院を受診する
陽性猫との多頭飼育の場合は、陰性の猫にワクチン予防をする
定期的な健診でエイズ関連症の早期発見・早期治療へつなげる



猫白血病ウイルス(FeLV)について知ろう

猫白血病ってどういう病気？

猫白血病感染の特有の症状というのは特にありません。

しかし、ウイルスにより免疫力が低下するため、いろんな病気にかかりやすく、また治りにくくなります。「貧血」「下痢が続く」「口内炎が治らない(難治性口内炎)」「病気や傷が治りにくい」など様々です。

感染して発症すると、リンパ腫や白血病といった血液のガン、骨髄の病気、自己免疫疾患といった予後が悪い病気になる可能性があります。

感染した猫ちゃんの**50~70%が感染後2~5年以内に死亡**するケースが多く、特に子猫の場合は発症しやすく死亡率も高いといわれています。**猫白血病そのものを治す治療はありません**が、猫白血病に感染したために起こるその他の症状は、適切な治療を施せば回復が可能なものもあります。

猫白血病の感染経路とは

唾液、尿、涙液、母乳、血液そして胎盤を通じて感染

体をなめあったり、感染している猫ちゃんと同じ食器を使ったりすることでも感染する可能性がある

このウイルスは唾液に多く存在します

猫白血病はネコ科のみに感染する(人や犬にはうつらない)

「白血病」との呼び名から人への感染を心配されることがありますが、猫白血病ウイルスは、人や犬には感染しません。

完全室内飼育で外猫との接触を避けることが一番の予防

猫白血病は母猫からの感染は防ぐことはできませんが、生まれてからの感染はワクチンで予防してあげられる病気です。

4種以上にワクチン接種が必要です。

感染が確認されたら...

- ・できるだけストレスをためずに過ごせるように心がける。
- ・感染しても症状が出ないことも多いので、常に注意して猫ちゃんを観察する。
- ・健康状態に変化が無いが定期的に健康診断を受ける。
- ・貧血に注意する(歯ぐきがいつもより白っぽくなったら要注意です)。
- ・体をよく触り、何か変化が無いか注意する(リンパ節のシコリには気をつける)。
- ・腎臓・肝臓の機能低下に注意する
- ・同居猫がいる場合は、必ずウイルス検査を受け、陰性ならワクチン接種をする。

